

酪農などに従事しながら練習に打ち込む。

松尾さんは帯広南町中卒業後、札幌市の高校に進学し、北海道コンサドーレ札幌のユースに在籍。阪南大学卒業後、興味のあった農業とサッカーを両立できる同チームの存在を知った。「自分の興味のある仕事で生活資金を得ながら、夢に向かって頑張れるのは、これ以外ではできない」（松尾さん）。仕事後に練習し、土、日曜に試合をするスケジュールをこなしていく。

同制度は農業の閑散期にシーズンを迎える冬季スポーツ選手に適している。橋爪社長は「今回の事例が、人手不足を解消しながら地域で若者を育てる1つのモデルケースとなれば」と話している。



以平地域連携型雇用で初めて就農する松尾さん（中央）と連携した農家

青果 3 年ぶり 400 億円割れ 豊作で価格低迷 ホクレン帯広 17 年度

2018 年 5 月 16 日

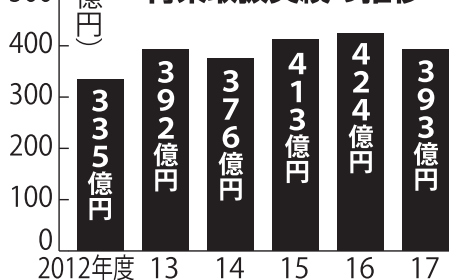
ホクレン帯広支所は 2017 年度の青果物取扱実績をまとめた。天候に恵まれたことで数量は前年度に比べ 20% 増えたが、全道的にも豊作だったため市況が低迷。販売金額は 7% 減の 393 億 3400 万円となり、14 年度以来 3 年ぶりに 400 億円を下回った。

◆ホクレン帯広支所 2017 年度青果物取扱実績

▲はマイナス

品目	数量 (トン)	前年度 比 (%)	販売金額 (万円)	前年度 比 (%)
食用ジャガイモ	32万0380	15	185億6400	▲11
ナガイモ	2万5930	▲4	98億1800	▲3
ダイコン	4万1850	21	32億0500	▲18
ニンジン	2万6920	60	19億8700	▲37
タマネギ	2万1360	76	14億2200	74
キャベツ	7670	55	5億3800	37
ゴボウ	2950	77	4億3400	17
ハクサイ	3530	38	2億5500	18
カボチャ	3500	61	3億6100	27
トウモロコシ	1700	45	3億5800	52
ユリ根	220	28	1億9900	31
アスパラガス	40	▲61	4600	▲57
その他	6640	40	21億4700	21

◆青果取扱実績の推移



17 年度の管内は豊作となり、多くの作物で 16 年度を上回る数量だった。

取扱量が最も多い食用ジャガイモで数量が 15% 増の 32 万 380 トン。事前の契約で販売する加工向けが多いため、価格が豊凶に左右されにくいものの、1 キロ当たりの平均単価は 23% 減の 58 円。販売金額は 11% 減の 185 億 6400 万円だった。ホクレン帯広支所青果課は「生食用はより大きく単価が下がったのでは」と推測する。

ナガイモは、4～10 月に販売する前年産が台風の影響を受け、数量は 2 万 5930 トンと 4% 減った。11 月以降に出回る当年産は平年並みで、単価は 1% 増の 379 円だった。販売金額は 3% 減の 98 億 1800 万円となった。

ダイコンとニンジンの数量は、それぞれ 21% 増（4 万 1850 トン）、60% 増（2 万 6920 トン）と好調だったものの、道内に加えて府県産も豊作で、ダイコンの単価は 32% 減の 77 円、ニンジンは 60% 減の 74 円に。販売金額はダイコンが 18% 減の 32 億 500 万円、ニンジンが 37% 減の 19 億 8700 万円と低迷した。

タマネギは 76% 増の 2 万 1360 トンとよく取れたが、加工向けが多いため単価は 1% 減の 67 円と安定、販売金額は 74% 増の 14 億 2200 万円だった。

同支所は「およそ 400 億円規模なので悪い販売金額ではないが、豊作で単価が下がった影響を受けた」としている。ホクレン帯広支所が扱う青果物は、ダイコンなど一部で釧路地区産も含んでいる。